

平成22年度 事業計画について

平成22年3月1日

東日本電信電話株式会社

1. 損益及び設備投資の状況

- 損益については、営業収益が対前年▲150億円に対し、営業費用は対前年▲200億円
営業利益は対前年+50億円の450億円の減収増益計画
- 設備投資については、NGN展開の収束等により、対前年▲300億円の4,300億円を計画

(単位:億円)

項 目	H22年度	H21年度(※)	増減額
営業収益	19,100	19,250	▲150
営業費用	18,650	18,850	▲200
営業利益	450	400	50
経常利益	650	600	50
設備投資額	4,300	4,600	▲300

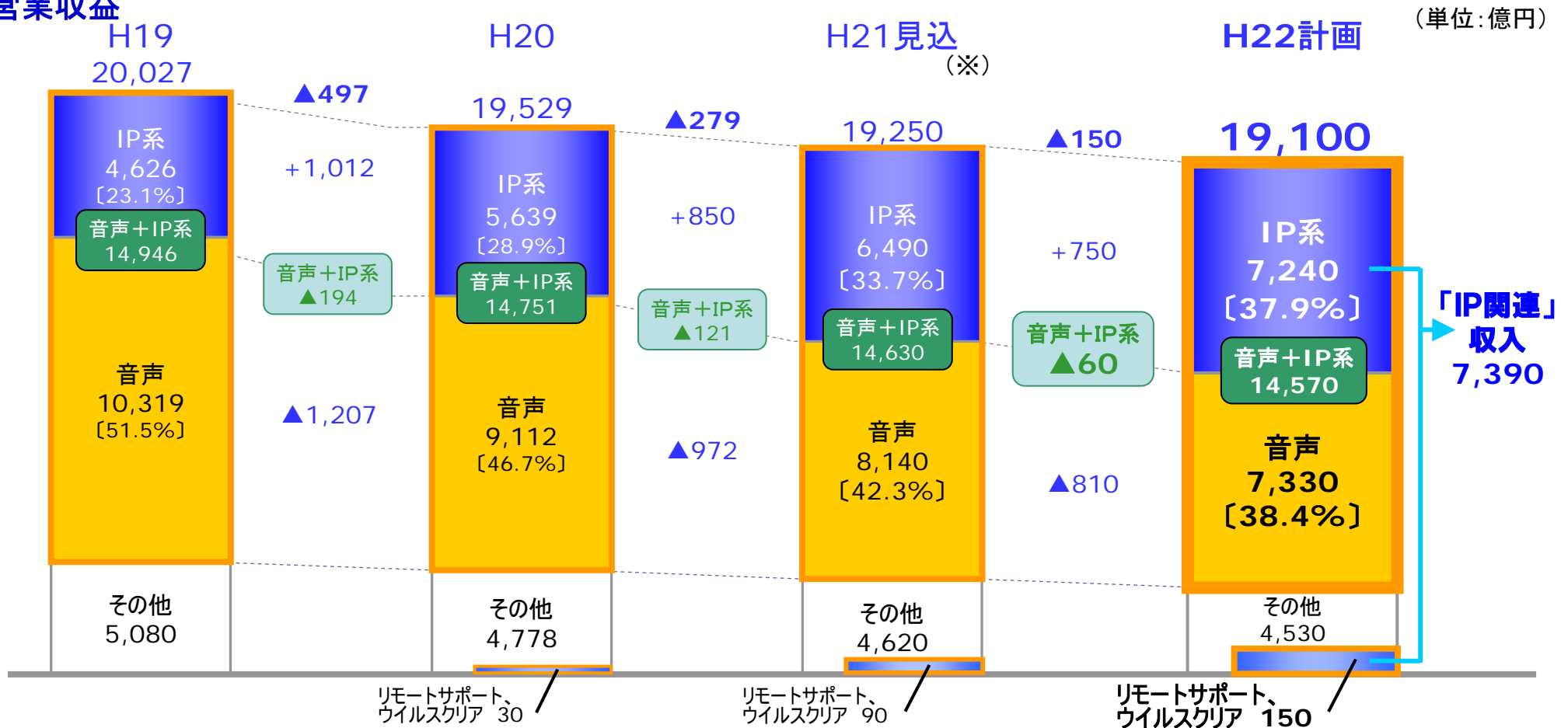
(※)H21年度の数値については、下記の既公表値より変更しています。

営業収益:19,150億円、営業費用:18,750億円

2. 営業収益の推移と収益構造の変化

- 依然、減収は続くものの、減収幅を着実に縮小させ、音声+IP系の減収も▲60億円に縮小
- 音声+「IP関連(=IP系+リモートサポート+ウイルスクリア)」では、対前年の増減額は±0とし、「IP関連」収入額は、音声の収入額を逆転する計画

営業収益

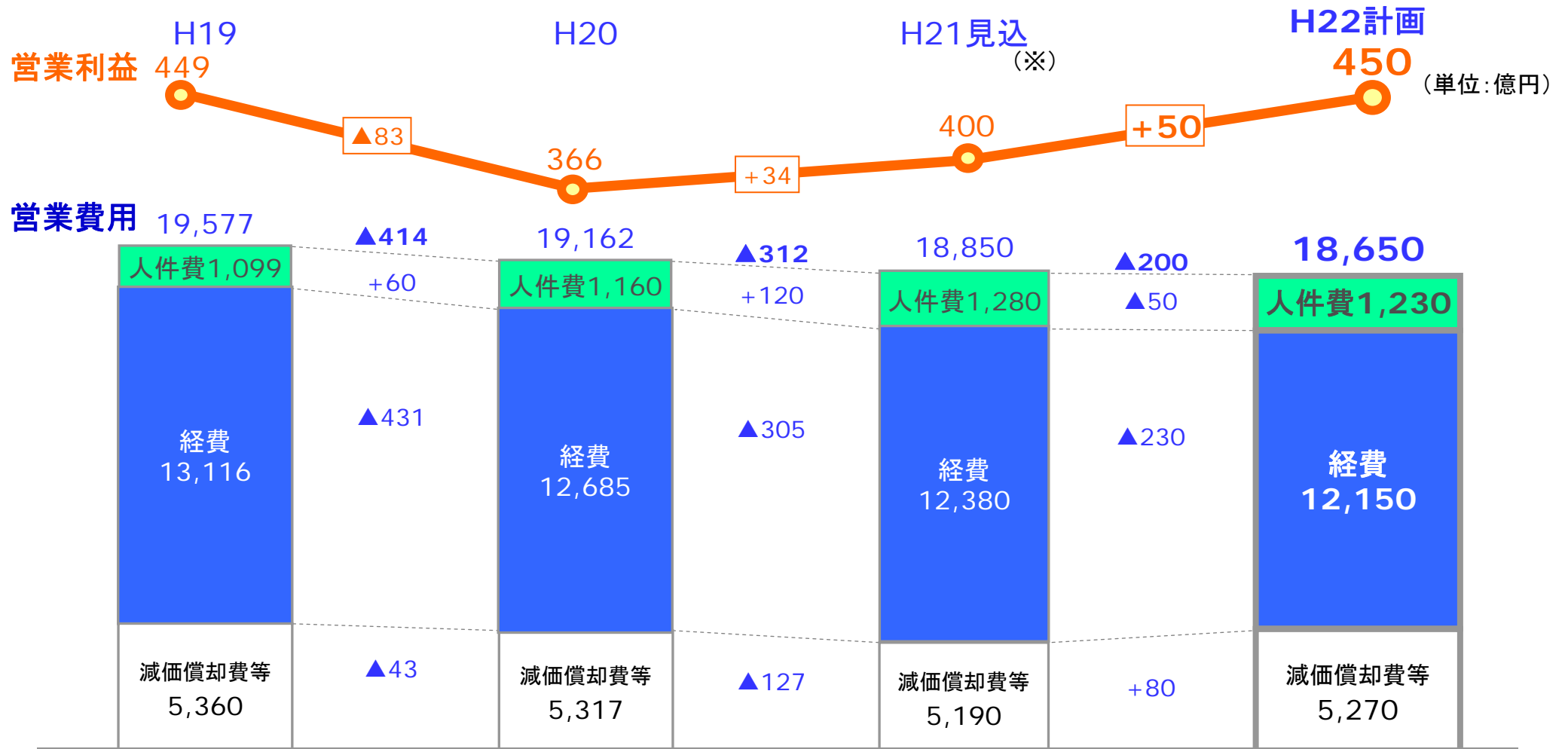


(※)H21年度の数値については、下記の既公表値より変更しています。
 営業収益: 19,150億円、音声: 8,110億円、IP系: 6,510億円、その他: 4,530億円

[]は営業収益に占める構成比

3. 営業費用と営業利益の推移

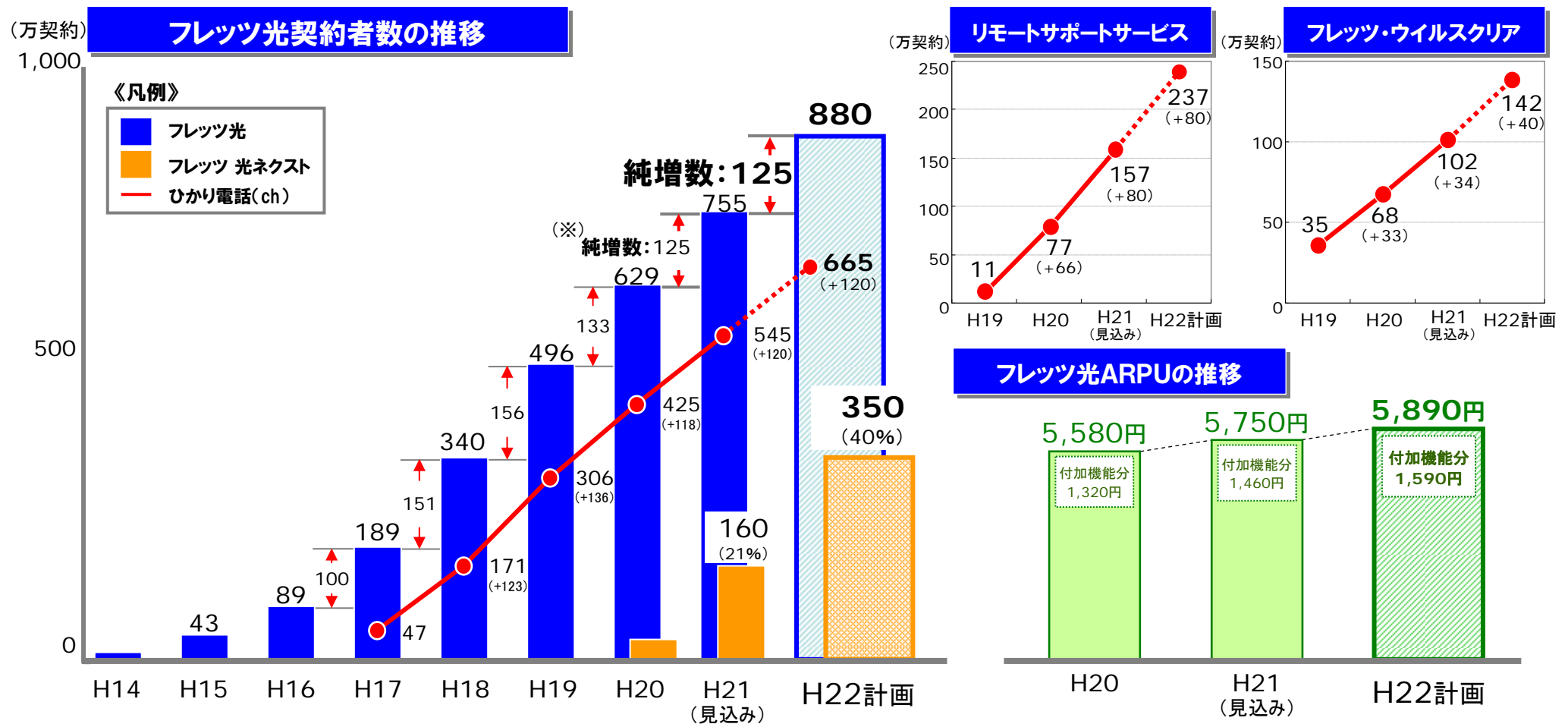
- 営業費用は、減価償却費等の増を、引き続き経費の削減によりカバーし、対前年▲200億円の削減
- 営業利益は450億円で、対前年+50億円の増益を目指す



(※) H21年度の数値については、下記の既公表値より変更しています。
 営業費用: 18,750億円、経費: 12,280億円

4. フレッツ光等の販売計画

- H22年度は、フレッツ光純増数は125万を計画
 フレッツ 光ネクスト契約数は、H22年度末で350万と全体の4割まで拡大を見込む
- ひかり電話は120万、リモートサポートサービスは80万、フレッツ・ウイルスクリアは40万の純増とし、
 フレッツ光ARPUの向上に取り組む

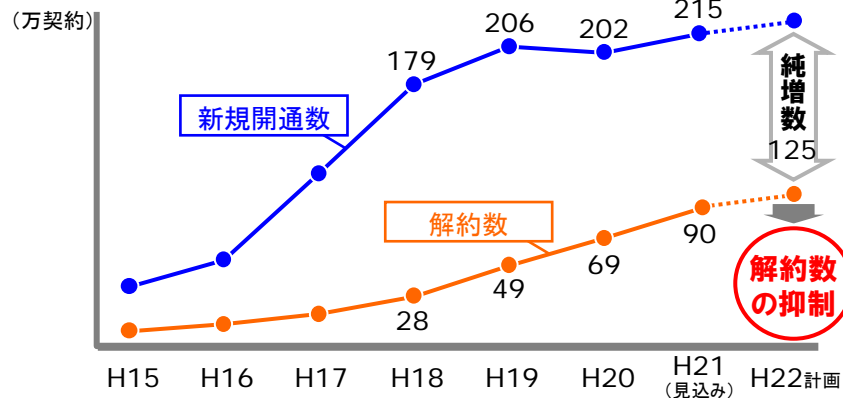


(※)H21年度のフレッツ光純増数は、既公表値140万より変更しています。

5. お客様のご利用継続に向けた取り組み

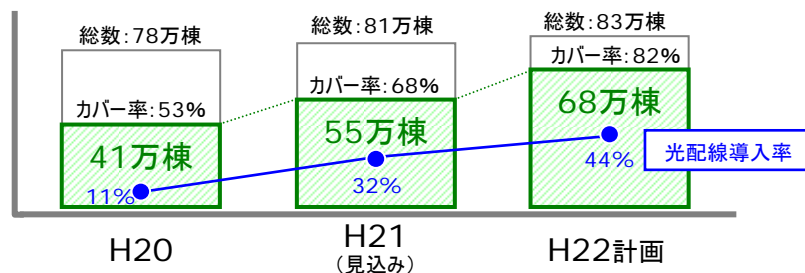
- フレッツ光の新規開通数は、H19年度以降は200万超で推移。一方、解約数は、契約数の増加等に伴い増加傾向
- 光契約数の拡大のために、お客様に継続してご利用いただくための取り組みを強化
- 具体的には、マンションの光カバレッジ拡大により引越しを契機とした解約が発生しないようにするとともに、多種多様な端末・サービスを光につなぐこと、フレッツ光メンバーズクラブの充実によりお客様のご利用の継続を図る

フレッツ光の新規開通数と解約数



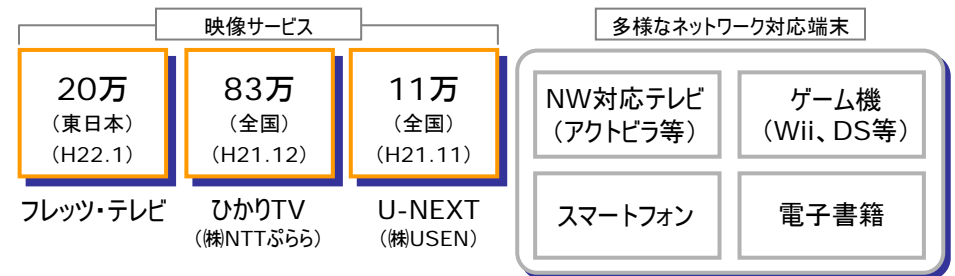
マンションの光カバレッジ拡大

- 光配線方式の導入に伴い、H22年度中にマンションの光カバレッジを総数83万棟の82%まで拡大
- 引越しを契機とした解約数を抑制



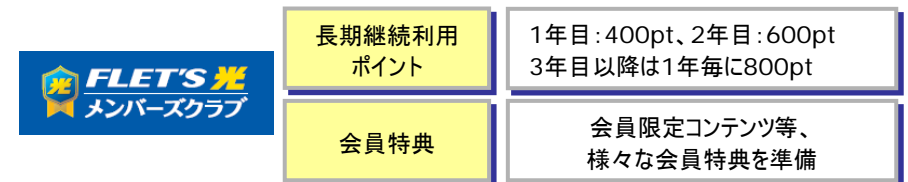
光の利用用途の拡大

- 多種多様な端末・サービスを光につなぐことにより、フレッツ光ご利用のお客様が継続してご利用いただけるよう取り組む



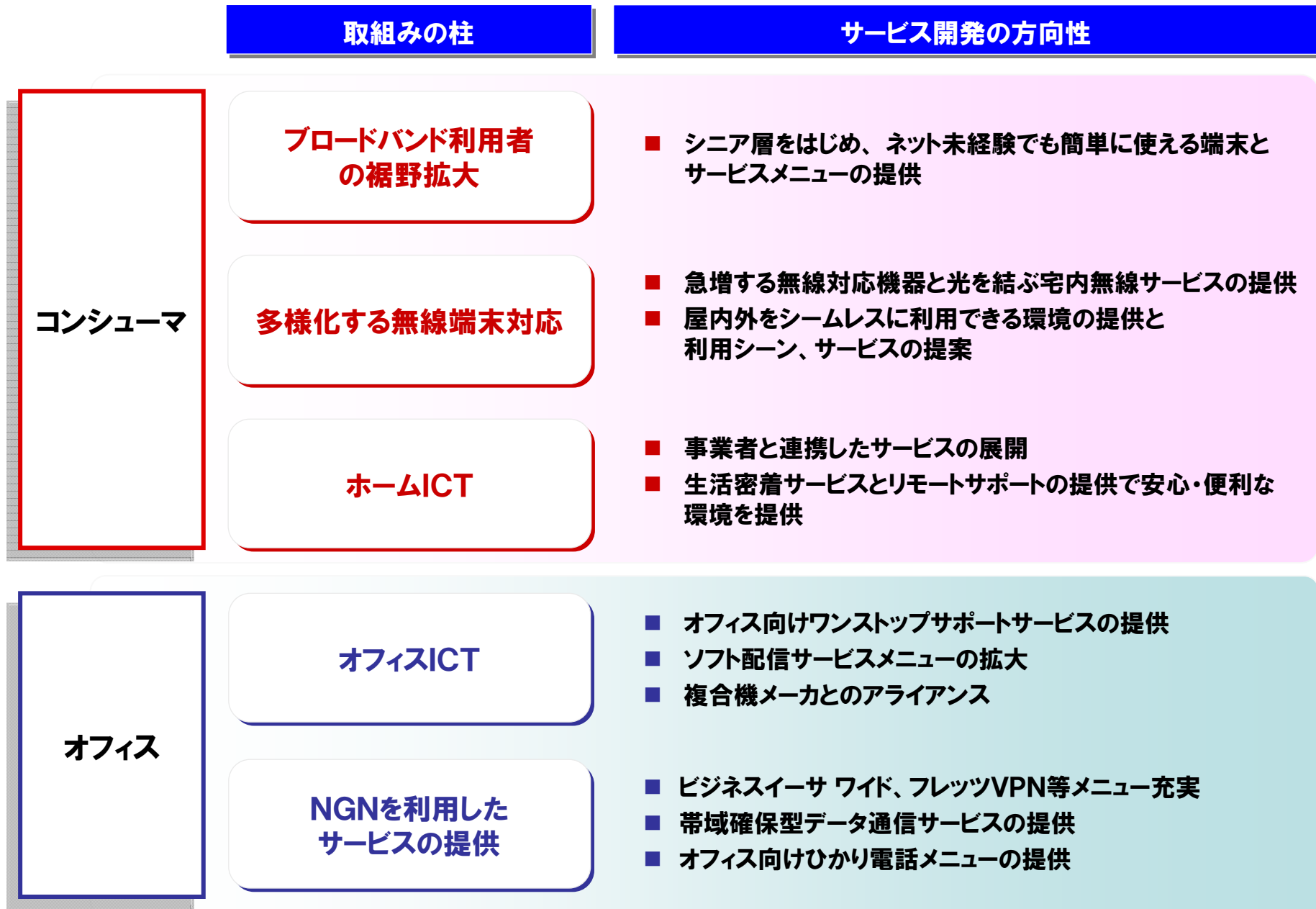
フレッツ光メンバーズクラブの充実

- 長期継続利用ポイント等、継続してご利用いただくメリットをポイントプログラムとして設定するほか、様々な会員特典を準備

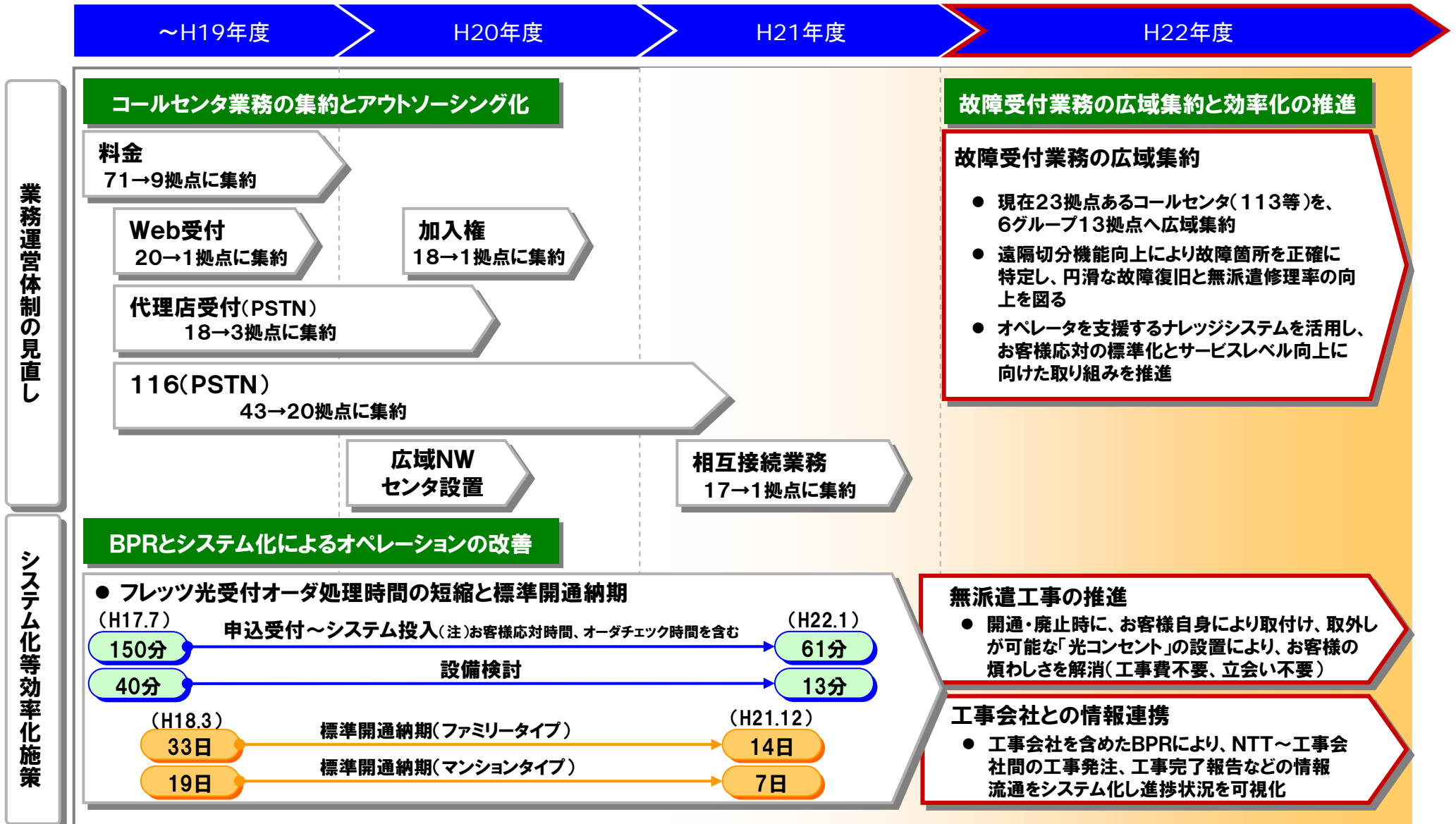


- 会員とのコミュニケーション機会を拡大することにより、ご利用いただいているお客様の声をサービス開発へ反映するように取り組んでいく

6. 新サービス開発の方向性



7. 効率化の取り組み



本資料及び本説明会における説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社の経営陣が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされ、もしくは算定されています。

また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を用いてなされ、もしくは算定したものです。

将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料及び本説明会における説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。